

日本作物学会会員の皆様

日本作物学会会長
齊藤 邦行

Plant Production Science(PPS)のオンラインジャーナル化

既に、本年9月の信州大学における第240回講演会並びに日作紀およびPPS最新号においてお知らせしましたように、PPSは2016年1月のvolume19から冊子体を原則廃止し、オンラインジャーナルとして新たな一步を踏み出します。同時に、著作権が著者に帰属する完全オープンアクセスジャーナルともなります。

この取組は、国際誌として地位を高めつつあるPPSの海外発信力を大幅に高め、アジア（モンスーン）地域におけるCrop Scienceのトップリーディングジャーナル化を目指すためのものです。

オンラインジャーナルの出版業務については、公開入札を行い、Taylor & Francis社に委託することになりました。

この取組には以下に示すように、多くのメリットがあります。

① 出版までの日数の短縮

これまでPPSは年間4冊の冊子体とそれに対応したオンライン上での出版であり、論文の採択から出版まで5-8ヶ月かかっていました。今回の取組により、その日数が、採択論文版で2週間、著者最終校正版で5週間と大幅に短縮されます。

なお、審査期間の短縮については既に各審査段階の日数の短縮に取り組み、その結果、平均審査日数がこれまでの約5ヶ月から83日に短縮され、最短審査日数が27日（26年度）、58日（27年度10月現在）となっています。今後は更に平均60日を目指すことにしています。

② 制限ページの拡大、カラーページ無料化、supplemental dataの掲載可

これまでの制限ページ（8ページ（review）、6ページ（regular paper））、

3 ページ (short report)) がそれぞれ、10、8、4 ページに拡大されます。それ以降の超過ページ代はこれまでの 15,000 円が 10,000 円に減額となります。また、カラーページが無料となり、supplemental data の掲載も可能となります。

また、今回の取組に伴い以下のような変更点があります。

① 投稿規定の改定

新たな投稿規定はこのお知らせと同時に学会ホームページに掲載されました。これまでと内容はほとんど変わりませんが、規定のスタイルが異なりますのでご注意ください。なお、投稿システムはこれまで同様 Scholar One を使用します。

①-1 新たな投稿規定による投稿論文に受け付け

[2015 年 12 月 1 日以降の投稿論文は新投稿規定](#)によるものとします。

①-2 旧投稿規定での受理論文の扱い

それまでに旧投稿規定で投稿し受理された論文については、オンライン掲載論文のページ数をもとにして、旧投稿規定における制限ページを超えた部分について追加ページ料金 (15,000 円/ページ) を徴収します。カラーページ(1 ページ無料、2 ページ以降は 1 ページ当たり 54,000 円)も同様です。

② 掲載料の徴収

これまでは投稿料無料でしたが、今後は掲載料として、60,000 円 (review)、50,000 円 (regular paper)、25,000 円 (short report) を徴収します。

③ 学会による英文校閲の取りやめ

これまで受理論文については、著者からの最終稿を受け取った後で学会として英文校閲を行い、校閲料を著者に請求してきました。今後は、この取組を止めて、英文については基本的な英文法チェックのみを行うこととなります。従って、投稿に当たってはこれまで以上に事前の英文校閲をお願いします。基本的な英文法チェックに対する学会から著者への英文校閲料の請求は行いません。

④ 冊子体の原則廃止

正会員、終身会員、名誉会員には冊子体を配布しません。ただし、団体会員および賛助会員には 1 年分をまとめた冊子体 (白黒) を配布します。

新たな掲載料の徴収が伴うことから学会員の皆様には負担とを感じる方もおられるとは存じますが、上に述べましたメリットを勘案するとこれまでの超過ページ代、英文校閲料、カラーページ代などを含めた平均の支払金額と大差ないものになっています。

オンラインジャーナル化に当たっては、PPSの内容の充実も図っていきます。2016年1月の第1号には、特集として高温障害を取り上げ、ミニレビュー3報と関連論文1報を掲載します。

会員の皆様には、オンラインジャーナルとしてのPPSのメリットをご理解の上、これまで以上に積極的に投稿され、PPSの一層の国際化と日本作物学会の発展に貢献していただくようお願いいたします。